

日光地域“まちづくり懇話会”会議録

日時：平成 29 年 6 月 25 日(日) 10:00～正午

場所：日光行政センター 大会議室

- 次第：1 開会 日光行政センター所長
2 挨拶 日光市長 斎藤文夫
3 内容 (1) まちづくり懇話会とは
(2) テーマ「地域で見守る高齢者対策」について
(3) 意見交換
4 その他
5 閉会

《意見交換内容》

参加者：地域でまちづくりということで、自分の自治会等の活動が中心となってしまいますが、私が属している山内の自治会なのですけれども、今ご説明にありました介護や医療とか生活支援などの実態の把握かなということで、2年に1回プライバシーに関ることなのですが、全世帯の構成の調査をしております。男女別の年齢と世帯構成です。どのような家庭にどのような問題があるのか把握できます。うちの自治会ですと平均年齢が48歳と非常に若いので、日光市の実態とかけ離れていると思います。それを2年に1回やるのですが、2年間でもいろいろ変化するので、それを前提としてしております。ただ、それを具体的にどうしたらいいのだろうということで、例えば、アンケートにあります交流の場というところですけども、先ほどの説明にありましたが、具体的にその場をどのようにつくるかということは非常に難しいと言いますか、物理的な場というと公民館とかなのですが、残念ながら私の自治会では公民館がないのです。そうしますと、具体的にどうなのだろうと、そこでまず行き詰りがあります。公民館というのは、大体、自治会単位ででき上がっていくと思いますが、実際問題として、公民館等は複数の自治会で使うということが可能なのかどうか、引っかかっております。それから、その場が確保できたとしても仲間作りと言いますかそれをやるのはなかなか大変かなと思います。先ほど久次良の事例もあつたのですが、まだそこまで私たちのところはっていないのですが、地域の中にリーダー的な人がいればいいのですが、なかなか現実問題として、課題として残っております。発掘するには市や大きな力を持つのは社会福祉協議会かなと思っております。社会福祉協議会のほうでリーダーシップを取られる方、あるいはその地域の支援をされる方とともに、自治会でそう方を発掘しなくてはならないのかなと思っております。市のほうにも、ぜひ、ケアマネジャー的な方たちの充実と言いますか、その辺をお願いできればと思っております。現実には地域にも大きい自治会から小さい自治会がありまして、例えば山内ですと、44世帯あるのですがその中で一つのことをと言っても、なかなか大変なものがあるのが現実でございます。一歩踏み出すところが、現実的にはなかなかできていけないので、自治会で事例がありましたら、それを知り今後の活動につなげていければいいかなと思います。

市長：合併前の5市町村で自治公民館の設置については、全部違うのです。足尾は、いくつかの自治会の中に、集会所を転々としてつくってあるのですが、今市は、ほとんど自治会単位で自治公民館を持っております。山内のとなりの自治会にはないのですか。

参加者：山内ですと安川町にあるのですが、高低差がありますので、お年寄りがそこに向かうのは大変だと思います。山内ですと社寺もあり広いので、まとまりが困難なところがありまして、現実的に足を運ぶのは無理なのかなと思います。

市長：例えば1つの自治会でなくても、2つ3つで1つの公民館をつくるということは可能だと思うのです。それは当然、市の助成制度を使えるわけですが、なかなか今からつくるとするのは、人口減少の中でどうなのかというのがあります。もう1つは、社会福祉協議会であるとかコーディネーターの人材育成ということですが、そういうものは市としては当然やっていきたいと思っております。

地域振興部長：山内地区が高台にあり高低差の関係から中々隣の自治公民館の共同利用ができないという話かも知れませんが、実は、中山間地域に行くと、もっと環境は深刻で、栗山地域などは、人口も減っているから手を結んで共同利用や自治会を統合しましょうかといっても集落間の圧倒的な距離感の問題で物理的に難しいという話になってしまいます。こうした地域に比べれば、日光地域は街中であるため、比較的共同利用や協力関係を築きやすいと考えております。先ほどの管理主体も、日光地域だとそれぞれの自治公民館は、自治会独自に管理されているわけで、自治会間の協力体制の構築という話は、まさに協働という視点からも望むところでもあります。また、協働利用から更に進んで、自治会同士が統合した事例はないのですが、足尾地域は比較的コンパクトな地域であるため、南部を中心に統合していこうとの考えは煮詰まりつつあります。また、仲間づくりや人材の派遣に関しては、地区公民館があったとしても、そこまでの移動の問題があり中々難しいということになれば、各自治公民館への出前講座などでお手伝いすることもできます。また、市民活動支援センターにはボランティアの市民団体が104登録しており、今のところ地域からの要望と団体活動がうまくマッチしているとはいえないところでもあり、今後、市民活動支援センターのほうからも呼びかけと言いますか、活動の場を拡げることができるよう調整を図ってまいりたいと思います。

参加者：所野自治会は大きい自治会で、世帯数が今でこそ650ですが、少し前までは700を超えていました。市営住宅に新しい方が入らないということで、減ってきているのが大きいです。持ち家の方で、お子さんが帰ってこないで、親御さんが施設に入っている方もおります。650世帯と言っているのですが、自治会に入っている方なのです。今まで入っていない方はどれくらいかはっきりしなかったのです。民生委員の方はわかっていたと思うのですが、今年度は入会されていない方の名簿も作りたいということで、10支部82組にお願いしまして、災害があったときお名前が出て自治会の方が把握できないのは問題だろうという

ことで、名簿を作ることにしました。まだお名前を出していただけない方がいらっしゃるのですが、約 25 名の方がはっきりとしてきた状態です。アンケートの話に戻りますが、交流の場作りということで高齢者対策ということだったのですが、所野自治会は、他の地域でもやられているイベントとしましては、正月明けのどんどん焼きがございまして、2 年に 1 回所野コミュニティセンターを利用して、10 月ぐらいにコミュニティ祭りと呼ばれて、文化祭を 2 日間やるのですが、2 日目は屋外を使いまして焼きそばとか餅をついて販売したりとか、そういったことも、地域の方に集まっていただくということでやっております。それは 2 年に 1 回なのですが、それ以外につきましては、コミュニティ推進協議会という会が 8 部会ございまして、グランドゴルフから始まりまして趣味の会とか将棋、碁とかをやっております。コミュニティ祭りがないときは、一大イベントということで、補助金を少し多く自治会のほうから出ささせていただいて、大会を盛り上げていただくということで行っております。福寿会というものがございますので、自力で行動できる高齢者の方は、カラオケに出たりグランドゴルフに出たり、福寿会の小旅行にも行けるのですが、自力で行動できない方、若しくは、家族の協力が得られなくてイベント会場に来られない方、こういった方まで参加していただくためにどうするかと言いますと、どうしてもボランティアと言いますか、運営する側で協力者を募って車で送り迎えまでするのか、というのは大変な作業になってしまいますので、なかなかそこまでにはいかないのが現実です。それから見守り隊ということで考えますと、所野自治会は 1 組 3 人というところもあるのですが、多いところで 15 世帯ぐらいになるのですが、その 10 支部 82 組を利用して、もう少し小単位で独居高齢者に対して週 2~3 回声を掛けるとか、組長とは別にそういったものをつくりこんで、確認作業だけするというようなこともできないこともないかなということでもあります。私も昨年から自治会長をさせていただくことになりまして、驚いたのは毎日のように市からピンクの封筒が届きます。私も老人ではないですが、ボケ防止や脳トレだと思っていたのですが、いっぱいいっぱい状態になりましたというのが本音です。今回、大きなテーマの中で、この会に参加させていただいたのですが、ピントが合っていたかどうか分からないのですが、現状だけお話させていただきました。

市 長：非常に理想的な自治会だと思えます。224 自治会ありますが、そこまでやっている自治会はなかなかないと思えます。ぜひ続けていってほしいと思えますし、これから高齢者が増えてきて、そういった支援が必要だと、ここに市が行うべきことということで、交流場等の情報提供アドバイスがありますが、こういったものは日光行政センターでも、公民館や社会福祉協議会でもそういうことができますので、大いに使っていただきたいと思えます。

参加者：場の提供と自分たちが現在やっていること以外で、どんなことができるということがあれば、そういった物も含めて、そういうこともできるかもしれないということがわかれば、もっと幅が広がるかなと思えますので、よろしく願います。

市 長：ありがとうございます。あと、市からの文書が多いというのは、自治会長さんには申し訳な

いと思っております。なるべく簡素化してまとめてという話になっているのですが、時間が経つとまた元に戻ってしまう感じで、申し訳ないと思っております。なんと言っても、やはり自治会長様あつての行政なものですから、自治会長さんがいないと全域の統一も図れませんので、少々我慢していただいでよろしくお願ひします。

参加者：裏見台自治会というのは、日光市内には49の自治会があるわけですが、基本台帳にない地名を使っているのが、この裏見台自治会であります。裏見の滝に近いところがありますので、そういった地名を使わせていただいでおります。私どもの自治会は、3路線の生活道路がありまして、その中で生活をさせていただいでおります。私どもの自治会でも高齢化が大変進みまして、老人会の加入率も大変悪くて、多くの方々から老人会はなくなってしまったのというような話をされるのですが、老人会という名称をなくして、シニアクラブという名称にして活動をさせていただいでいるのですが、それでもなかなか加入促進が図られておりませんので、今後の課題として日光市全域でも、老人会加入率や自治会加入率についても問題になっているのかなと思っております。裏見台自治会は210世帯あるのですが、この地域の中には、集合住宅、借地、借家の住宅は一戸もありません、純粋たる世帯が210世帯あるということです。先ほど申し上げましたように、私どもの生活道路は、県道、市道2路線、その3路線を生活道路として運用しているわけですが、ここにも書いてありますように、3路線とも坂道が多く、高齢化に向かう中で、高齢者が買い物に行くにも大変だという話が、8年ほど前から出されておりましたので、日光市で実施をしている見守り活動そばネット事業を基に、何とかそういったものを解消しようではないかというようなことから、私どもの自治会の役員会の中で終始論議をした結果、ボランティアを募って、ボランティアの皆さんにいろいろな施策を協力していただこうではないかということで、回覧を回しまして、自治等の役員以外に26名の方々にボランティアに参画をしていただきまして、会議を開きまして、そのボランティアの26名の中からサロン担当や見守り活動担当さらには買い物支援ということで行っております。もう1つあるのですが、4つのグループにわけまして、それぞれの活動をさせていただいでいるところであります。また、見守り活動の方々は、女性を中心に3名1組で、自治会の中の高齢者宅を訪問しているのですが、なかなか今は、口がみんな達者で私は元気だから来なくてもいいよとなってしまいます。それぐらい元気な人がいたのですが、この中に書いてあるように、一番元気だった女性の方の家に行くと、近所の方は旅行が好きなので旅行にでも行ったのかなということで、身内の方に相談をして玄関を開けていただいで中に入ったら倒れていました。警察の方が来たり、病院に連れて行ったら、もう3日前に亡くなっていたということで、大変私どもの地域として痛ましい事案が発生してしまつたわけですが、支援事業者に対しては、コンパスで4キロ範囲の見守り活動の範囲を限定したのですが、それでは可愛そうだというようなことから、それを契機に、日光行政センター、買い物はリオンドールまで、乗り物の送り迎えは、東武日光駅、JR日光駅まで範囲を広げてやろうと、これは1回100円という料金を設定して活動をしているわけですが、今日まで皆さん元気なものですから、発足して5年になりますが3件しか利用がないということではありますが、これからますます利用頻度

が高まっていくのではないかと思います。それに向けて活動をさらに拡充していきたいと思っていますところでもあります。買い物支援の送り迎えの際に、それぞれのマイカーを使ってやっているところなのですが、使用頻度が高くなりますと、そういった方々の負担にも若干かかってくるのではないかと思います。自治会では負かりかねると思うのですが、専用の自動車を買って運用にあてなくてはならないのではないかと考えておりますので、何年か先には、行政に相談しながらお力添えいただかなくては、この運営がまかりとおっていないのではないのかというようなことがありますので、その節は新たにご願いにあらいたいなと思っています。私どもが管轄しております地域は、清滝から奥日光まで管轄して、1つの地域の自治会を運営しているわけではありますが、その中で清滝地区に出張所があるのですが、利用者が減少はしておりますが、この出張所が大変手狭でありまして、2階に上がりますとトイレが臭いということで、何回か会合をやらせていただくのですが、行ったときには環境的にいただけないなと思っています。そういった出張所等の建替えとかそのような問題について、以前に市の対策会議の中で提言したことがあります。この日光行政センターも建替えしてきれいになるとは思いますが、中宮祠の出張所もかなり年数が経っておりますので、そういった面についても、機能を低下させることなく出張所の建替えについても、これからも目を向けていただければありがたいと思っています。それと、日光市内の市道は、砂利道がなくなってきたわけですけど、長年使っておりますと、市道の傷んでいるところが、あちこち見受けられておりますので、そういった市道の改修もそれぞれの地域において、年次計画を持って改修をしていただければありがたいなと思っています。なぜこのようなことを申し上げるかという、日光地域は観光地でありまして多くの観光客の皆様方が、奥の細道にもどんどん入って観光されているということもありますので、そういった面も合わせて不評を消失すためにも、市道の改修改良工事もしていただければありがたいなと思っていますので、そういった面も含めてよろしくお願い申し上げます。

市長：老人会等の加入であるとか、今、立派なサービス提供をやられていますが、これからの高齢化に伴って、なかなかそういったサービスができなくなるので、それを行政がどう支援するかということですね。

健康福祉部長：それでは、老人クラブの加入の話がありましたが、全くそのとおりだと思います。加入率が低下して由々しき問題だと思います。対策でも何でもないので、シニアクラブという名称に変えとか、そういった取り組みにいろいろご苦労されていると思うのですが、昔、西日本の自治体だったのですが、老人クラブには65歳ぐらいの方から加入できるのですが、それくらいの方は、老人と呼ぶのを抵抗があるということで、老人クラブ青年部をつくったということがあるのですが、そういう発想も必要なのかなと思います。同じような認識でいますので、いろいろなアイデアがあれば、広めていって対応していきたいと思っています。それと、先ほどの地域包括ケアシステムで、生活支援や介護予防の事業を行っていくということを実践されているということで、改めてお聞きして、頭が下がる思いです。

そのように行っていく中で、課題がたくさん出ているというのは、まさにいろいろな地域にこれから広めていくときに、先進的にやられている事例なので、そういうことを参考にさせていただき一緒に考えさせていただいて、いい対応をとっていきたいと思いますので、貴重なご意見ありがとうございます。

副市長：清滝出張所と中宮祠出張所の取扱いですが、11年前に合併しまして、その当時の5つの市町村で、それぞれの施設を持っていたのですが、この11年間で、これから人口が減少する人口が減少することによって税収も減少する。それをそのまま維持するのは、将来的に無理だという見通しを持ってしまして、公共施設をどのようにこれから維持管理していこうかというのを、今、取り組んでいるところです。公共施設マネジメントという名前で、市役所内で取り組んでいるのですが、その中では、例えば清滝出張所の話ですと、税務関係、戸籍関係そういう機能を残したまま、建物を一緒にしませんかということなのです。そうすることによって維持費用も光熱費も共用できますし、人も共用できますので、そういうことを考えています。例えば、近くにありますが女性サポートセンターと一緒にしたらどうだろうということ。女性サポートセンターは、まだ建物として立派ですから、そこをそのまま使えるか、それとも一部改修して、窓口カウンターを据え付けるようなかたちで使えないかということ、具体的に考えていきたいと思っております。中宮祠の場合には、なかなか消防署と一緒にするというわけにも現実的には無理ですので、必ずしも2つ一緒にしないと先に進みませんということではありませんが、清滝の場合はそのような可能性もありますので、そのような可能性を探りながら、機能は残したままコストがかからないような方法で、これから模索していきたいと考えております。

建設部長：市道につきましては市内全域そうなのですが、道路網の整備は各地域とも整いつつあります。先ほどお話がありましたように、今後の安全対策とか老朽化対策のほうに計画的に取り組んでいきたいと思っております。

参加者：旧日光市内と言わないと、日光市があまりにも広くてどこかわからないので、私どもは、意識的にそう言っています。今日は休日なのにご苦勞様ですというお話がありましたが、市長さんは昨日も今日もお仕事、また、皆さんも連日ご苦勞様です。皆さん見ていただいてわかるとは思いますが、上鉢石町の自治会は、全日光市の中でも数からいくと下から数えたほうが早いという、わずか40戸に満たない自治会でございます。40戸と言っていますが、夜になると住んでいる人は20戸という自治会ですが何もやらないのが当たり前ではなくて、これから何かやろうと思っているのですが、何から手をつけていいかわからないのが現状でした。そこに書いてあるように「地域で見守る高齢者対策」の1つとして、われわれの自治会でも何かそのようなことをやれないかと、あるところに私が書いたのが原因で、ふくまち委員会という委員会をつくっていただいて、そこでわたしも一員としてやっています。その人の協力を得て7月18日に上鉢石町内の自治会が皆さんにお世話になりました。昨年の補助金をいただきまして改修をして使えるようになったのを期に、これから何かを

やろうという機会をもって、仮称ですがサロン鉢巻という名前でやろうとしております。これによってこの後、実施の段階においていろいろ問題があると思いますが、そのときは、よろしくお願ひしたいということをお願いしておきます。この行事について、社会福祉協議会の日光支所の皆さんや、ふくまち委員会の日光地区の委員会の皆さんとか、包括支援センターの方が相談に乗ってくれて7月18日に第1回目がやれる段階までになりました。しかし、その第1回目が本当にできるかどうかは疑問です。何と言っても、そのような活動に対してあまり協力的な参加もない自治会なのです。実施段階でいろいろと問題が発生すると思いますので、そのときは、ご指導のほどよろしくお願ひしますというアンケートの締めをしていますので、今後もお願ひすることが多々あると思いますので、地域振興課の方や、その他の方にもご指導いただきたいと思います。

市長：このサロンを実施していただけるということで、私は社会福祉協議会の会長もやっているもので、日光支所も使って、いいものを求めて行って欲しいなと思います。その他にも問題が出た場合には、ここに記載のとおり関係の者が支援をしていくと思いますので、何なりと言ってほしいと思います。頑張ってください。

参加者：宮小来川自治会長の他に、小来川6自治会の協議会の会長を今年からやっておりますが、まず、老人クラブなどはグランドゴルフなどを結構やっているのですが、雨の日などは麻雀大会やカラオケ大会をやっております。カラオケ大会は1年に1回、文化祭があるのですが、麻雀をやるのには、自動の積機だとあまり手を使わないのですが、普通のこたつの台とかであれば、手を使うのでボケ防止とか認知症予防になりますし、相手を読むとかそういうことで頭を使うということでもいいのかなと思います。カラオケなのですが、今朝テレビでやっていたのですが、スクワットをやりながら歌うと、かなり筋肉のアップになるということで、苦痛だけど楽しくできるという話を聞いたので、そういうのもいいかなと思います。それと介護予防のために、介護教室を健康課がやっていると思うのですが、こちら辺では、あまりやっていないので指導をよろしくお願ひします。それと大会には、ある程度賞品があればいいと思うので、市のほうで用意していただければというのが要望です。

市長：支援事業ということでいくつかメニューがあり、資料も持って来ておりますので、合っているものを使って欲しいと思います。全部使い切るということはそうないので、是非そういったものを使っていただければと思います。

参加者：社会教育委員長としての立場で、考えさせていただいております。今日のテーマが地域で見守る高齢者対策ということですが、前民生委員を拝命していましたので、そちらの立場はよくわかっていますのでお伺ひしたいと思います。地区公民館を使えるのが一番理想だと思うのですが、どうしても日光地域は縦長で、非常に集まりにくいということです。大体の自治会は自治公民館を持っていますので、うちの町内としては公民館をサロンとして月2回運営しております。そのサロンには、常時15名から20名の方々が来ていまして、まさ

に何でもできる元気なお年寄りなのです。他の地域と交流をしているときに、うちの老人会を連れて行くのでよろしくということで連れて行くと、どこに年寄りがいるのですかというぐらい元気な方々がたくさんいらっしゃいます。民生委員時代には、この方々が、ご近所さんを見ていてくれと、向う三軒両隣、昔に戻ってお節介焼きでもいいから見ていてくれということで見させております。ですから、たくさんの細かな情報がそこから入ってきております。この中には入れてなかったのですが、どうしても民生委員の方々が言いにくかったというのは、市の情報が出してもらえないということです。独居とか高齢者世帯の名簿は出てくるけど、その他の名簿は出してもらえません。国としても県としても、市町村には民生委員に協力をしなさいということで通知してあるのですが、その情報が得られないということで、皆さん非常に困っていると思います。昨年あたりは、80歳以上の方の名簿は出していただけただけということで良かったのですが、民生委員というのは特別職の地方公務員なので、市の職員と同じ扱いを受けていいはずなのです。そのようなことで、民生委員にも、どんどん情報を提供していただきたいなと思います。私の町内は非常に小さい町内なので、昔から知っている方がいますので情報は掴めますが、町内にいくつか自治会があると少しわかりにくいので、情報をいちいち歩いて集めなくてはいけないというのは、大変な苦勞になるので、その辺の情報提供をぜひとも民生委員にさせていただきたいと思っております。テーマのところに書いておきましたが、高齢者対策に前向きで理想的なことが、神奈川県平塚市で行われている「町内福祉村事業」ということで、1つの小さい地域ごとに、まさに市のほうから予算をつけてコーディネーターを配置しています。そのようなことができないかなと思います。あと、サロンに対して月5,000円くらいの飲食費などまで出しているところもあります。その辺は県としてもまだできていないので、いずれはそのようなことを行ってくれればいかなと考えております。

健康福祉部長：貴重なご意見ありがとうございます。まず、民生委員さんへの情報提供の話なのですが、実際に活動されているときに必要な情報がいかないというのは、機能しない話になってしまうので、法律でだめとなっているものは当然できないのですが、そうではないことは、出せるように確認して出していきたいと思います。それと、平塚の例なのですが、ご提案があつてから見たので、なかなか詳しいことはわからないのですが、なかなかいい事業だなという感じはします。参考になさっていただいて取り入れられることがあれば、取り入れてみたいと思います。それと、サロンも今実施されているということで、元気な高齢者の方が自分たちで見守りをするという活動も、ここまで聞いていて、皆さん方は現場でとても取り組んでいらっしゃるなということを改めて感じていますので、ぜひそういったものを広げる支援というか、一緒にやっていけることがあればやっていきたいと思しますので、よろしくお願ひします。

参加者：久次良町は370世帯ぐらいです。自分たちの自治会でできることを見つけてやっていこうということで、今ちよいボラと言って、お買い物とかおしゃべり訪問とか、ほっと久次良隊と言って、隣組に1名ずつ女性の隊員を配置して、自分の隣組だけ訪問するのではなくて

見守りをしていただくということで、カーテンがずっと閉まっているとか、電気がずっと付けっぱなしとか、新聞が溜まっているとか、そういうちょっとしたことに気づいたときに、民生委員とか自治会長とかに連絡してもらって、民生委員がそこを尋ねて行って、何もなければそれでよし、何かあったときには助けになるかなと思います。このきっかけは何かというと、うちの自治会は一時徘徊が多かったのです。徘徊のときにどうやって防ごうか、寒いときもなかなか大変といったときに、隣組だと常に顔なじみの人たちばかりなので、そういう人たちに見守ってもらうほうが安心だということで、ほっと久次良隊ということで隊員さんは女性にしています。それから、おしゃべり昼食会といって、年に何回かみんなで作って、みんなでご飯を食べて、ゲーム大会をやったり歌を歌ったりしようということを、年に何回かやっています。それは、高齢者ばかりなのですが、久次良町は小中高とみんなありますので、年齢を超えて地域でコミュニケーションづくりをやっていこうということで、小学校は小学校で地域の人とみんなで、地元のお地蔵さんを守っていきましようということで、帽子を作ったりエプロンを作ったりしています。中学校と自治会は避難訓練、それからグランドゴルフ大会ということで、中学校とつながっております。高校とは、去年から地域連携プロジェクトということで、久次良町だけではなく近隣の自治会と一緒に、高校も地域に繋がっている高校になっていきたいということを知ったので、地域と一緒に地域のことを知ったり、お互いに助けあったりしましょうということで、地域連携プロジェクトというのが始まっています。これは小中高全部含めて、将来的にはこういう町なのだ、こういう町だから年齢を超えて何かあったときにみんなで助け合っていこうということで、基本になるかと思いついています。その中で、1つお願いしたいということがあって、久次良町は380世帯ありますが、とても広くて国道を挟んで山から川まで高低差がある自治会です。だいたい久次良町公民館に集まっていたのですが、山の上にあるので車で参加者を送迎しています。これには、自治会で送迎保険という保険に入っているのですが、これが案外高いのです。車1台1年間入ると1人2,600円なので、5人乗りだと12,000円近くかかってしまいます。車2台登録すると結構な金額になってしまいますので、全額とは言いませんが、自治会の負担を軽減していただければありがたいかなと思っております。自分たちでできることをできるだけ自分たちでやっていこう、自分たちで助け合っていこうと久次良町でいろいろ考えているのですが、先ほどの健康福祉部長のお話で、地域でできることは地域でやる、でも病気になったときとか、やっぱり医療が必要になってきます。医療が必要になってきたときに、今、日光地域には市民病院しかありません。あとは個人医院なのです。重い病気でも、軽い病気でも、宇都宮とか壬生とかの大きな病院に行ってしまうと、ますます地域の病院が成り立たなくなっていくというのが現状だと思うのです。2~3年前に、県で地域医療を考えるという講座があって、たまたま興味があって聞きに行ったのですが、岩手県の千厩病院という田舎の病院なのですが、地域に総合病院がないと、みんなやっていけない、安心できないということで、だから地域のみんなで病院を大事にしていこうというふうに考えた地域があって、中学生もその病院に行って花を植えたりとか、子供たちは子供たちでその病院を大事にするという気持ち、大人たちも掃除に手伝いに行くとか自分たちが手伝いに行って、自分たちの病院を大事にしよ

うということをはじめた病院が岩手県の田舎にあるのです。私はそれにとっても興味があって、そこまで見に行きました。実際に見に行くと、派手ではないのですが、そうやってみんなで支えていく病院が地域には必要だと思いました。そこでも手に負えなかったら大病院に行くということが、市民の方に浸透していかないのかなと思います。例えば、在宅医療、訪問看護、地域の病院の大切さを皆さんにわかる講座みたいなもので皆さんに知らせて、みんなで病院を大事にしていこうということを私は提案したいと思いました。別に私は市民病院の宣伝マンではないのですが、皆さんが大きい病院に最初から行くのではなくて、特に高齢になったらそうだと思うのですが、地域の病院を大事にしていけないといけないと思います。それには皆さんが、そういう意識改革をしていかないと、やっていけないのではないかと思います。せっかく市民病院をつくっていただいたので、それをもっといいかたちで成り立っていければ、とてもいいのではないかと思いますので、市の方たちにご意見をいただきたいなと思いました。

地域振興部長：自治会や、もしくは市民団体の方によるまちづくり活動に対する支援制度がありますが、それには回数の制限などがあります。また別に、本年8月から新たに実施する予定で、ボランティア活動の保険制度の準備をしています。ただいま言われた車に係る保険まではさすがに対象になりませんが、市民活動に関しては、かなり幅広くカバーできる保険に加入をさせてもらうことになるため、その辺は一步進むものと捉えております。

副市長：岩手県の千厩病院の事例はわからなかったのですが、兵庫県の丹波笹山に県立病院だったと思うのですが、やはり閉鎖しようという話があったときに、その時に貴重な医療資源ですので、みんなで病院をやめさせないようにしようということを取り組んだそうなのです。その際に、時間にかまわず病院に行くのはやめよう、先生だって人間なのだから夜中の2時3時に行かれても困る、そういうところは理性を持って受診しようというようなことが、市民レベルで動きがあったそうです。最終的には手放されて、兵庫医科大学がそのあとを継承してやっているのだと思うのです。そんな中で、市民病院を行政が先頭に立ってそれをやりましょうというのは、医療機関の関係の中で、特に自治医科大学と獨協医科大学との狭間にも入ってきますし、そこは少し難しいと思います。市民の方々がそういう動きをされてきた時に、市のほうもバックアップしましょうということは可能だと思いますので、皆様のお力を借りてそういう運動ができるのであれば盛り上げていきたいというように思います。

市長：先ほどの保険なのですが、市民活動であるとか自治会活動というのは、市民生活にとって、特にこれからの高齢化社会の中では、非常に重要な位置を占めてくると思うのです。これまで懇話会を2回やった中でも活動に対する助成についての話がすでに出ているのです。予算編成の中でそこら辺を詰めていきたいと思っています。そういった点では、おそらく久次良町だけだと思いますが、保険料は1人2,000円くらいということですね。

参加者：5人乗りだと2,800円の5人分です。年間で2台持っていたとしても4万円くらいです。

市長：なるべく、その中でカバーできるような仕組みを検討してみたいと思います。

参加者：私が住んでいるのは、清滝一丁目です。清滝で活動しているというのは、貯筋アップ体操を昨年から私も出席しております。だいぶ好評で、絶えず30人以上は出席しております。ただ残念なのは、集会場が一丁目はなくて、お寺と神社を利用しております。何か一つできればいいなと思っております。今日のテーマが高齢者対策ということでして、私は見てのとおりに高齢者ですので、果たして見守ってもらう方なのか、ここに来てこうしたほうがいいという方なのか狭間にいます。

健康福祉部長：清滝の貯筋アップ体操ありがとうございます。先ほどの山内のほうからも出ていたのですが、場所の課題とか自治公民館がないとか、清滝一丁目もそういったことで、お寺とか神社とかを使ってやっているのですね。

参加者：貯筋アップ体操は、サポートセンターの体操室で行っております。

健康福祉部長：いろいろ困っているところが、それぞれ自治会で違うのだなと、一般論になってしまっていて申し訳ないのですが、そういったことで、ふくまち委員会が機能しているのだなと思えました。先ほどの話とかぶってしまうのですが、先進的に取り組んでいる例を、伝えていく機能がふくまち委員会にもあると改めて思ったので、その中で、それぞれ自治会でやろうとしていることが、何が支障になって何が不足しているということ、あの場でもっと共有できるといいなと思います。皆さん地域、地域で違うということ、改めて思いましたので、先ほどの話を正確に理解していないので、あとでお聞かせください。

参加者：まちづくり委員にも属しております、清滝出張所を利用しておりますが、においとかがきついので、市のほうのまちづくり検討会で提案しましたら、早速対処していただきまして、先日も伺ったのですが、おかげさまで希望がみえましたと他の参加者もおっしゃってくださいました。ありがとうございました。

市長：事前のアンケートの中で、地域リーダーの育成を市のほうでという話がありますが、これはいろいろな方面でそのような話が出ていまして、できる限りそのような、核となるリーダーがいないと活動がなかなか難しいと思いますので、そういう方向にも力を入れていきたいと思っています。

参加者：中宮祠は比較的大きな規模の宿泊施設が2軒廃屋になっており問題なのですが、われわれ地権者でもないし対応できないところでもあります。また、公共の輸送機関のバスターミナルの前に、10年近くシャッターが閉まったままの食堂があります。言うならば中宮祠の玄

関口なので、何とかそのシャッターを開けようという話になりまして、日光自然博物館の受託事業や駐車場管理をやっている、法人格を持っている奥日光観光サービス振興事業協同組合が、新規事業ということで店舗を開けようということになりました。各店舗から出資いただいている関係上、他の業種とバッティングするのはうまくないので、何かないかなと言ったら、味噌を熟成させて味噌の販売ぐらいできるのではないかという話になったのです。それでその店舗を借りることになったのですが、まだ詳細は決まっておりません。理事会にかけたところ、専従の職員を置いてやったら赤字だろうと、そんな余裕が組合にあるのだろうかということで蹴られまして、今は宙ぶらりんの状況であります。そこで、高齢者の地域まちづくりで、高齢者のサロンのような利用はできないのだろうかということを経験しているところなのです。場所的にもバスターミナルの前で国道沿いであって中宮祠小中学校の通学路にあたっているのです。そこを地元の高齢者のサロンとした場合に、子供たちに昔の中宮祠や湯元のいろいろなことを伝えていくとか、バスターミナルの前ということで、インバウンドで外国人も増えると思うので雨宿りなど、そういった機能を持たせた場所になればいいのではないかと思います。それで、その高齢者の方も味噌を販売してくれれば、そういった意味でまさに社会参加、それから社会の役割を担う者になるのではないかと思います。そして、居場所を提供できることになるのではないかと思います。もう一つは、中宮祠や奥日光地区も、徐々に高齢化、戸数が減っております。ところが、極めて少ないのですが、中宮祠の風光に見せられて住みたいと越してくるという方もおります。しかも、比較的若い方で子供さんを連れてくるそうで、20名いない中宮祠小中学校が、20の大台に乗るのではないかと期待しているところであります。日光市では地域おこし協力隊があると聞いたのですが、その変形版みたいなもので、そういったものをアシストしていただければ幸いかと思うのです。住民が若返って高齢者とうまく付き合えるポイントを、今、模索しています。味噌だけは仕入れてもらって、改装費とかそういうのはまだまだなので、10年ほどで閉めていた店舗ですから、まずトイレを改修したりかなり手直しが必要です。そういったハード事業を何とか市のほうで面倒見ていただければ幸いかと思います。もう一つ蛇足であります、合併して11年になるわけですが、合併してまもなく市道の愛称ということで、建設課から言われたのか、地元で委員会を開いて付けました。今月のはじめに行ったら、雰囲気の良い道標をつくってくれました。特別な事業ではなかったのですが、2箇所だけ道標が立ちました。それは黒門坂で、現在郵便局があるところの坂道なのですが、郵便局の坂という人が多いのですが黒門坂という名前にしました。もう一つはサラマンダー坂です。妙な名前なのでよく聞かれるのですが、50年近く前に中宮祠で医療をなさっていた篠崎先生という方が、サンショウウオの先生という愛称をもっていて、サンショウウオの研究をなさっていたのです。そんな関係で、その先生を顕著する意味で、サンショウウオ坂だと言にくいので、サラマンダーにしようということでサラマンダー坂と付いた経緯があります。この2箇所に雰囲気の良い道標を立てていただきました。ささやかなハード事業だけれども、ムードは非常にソフトで立派にできているので、この席をお借りしまして建設のほうに御礼を申し上げます。

市長：ぜひ、頑張ってやって欲しいと思います。市が行うべきことの中に、利用目的に沿った改修であるとか、快適なトイレというのが出ましたが、担当部長からお願いします。

産業環境部長：空き店舗利用というかたちで、既存のお店のリフォームや、新たに空き店舗を借りたりして開業しようというときの補助メニューはあるのですが、高齢者向けのサロンと味噌の販売ということもありますので、細かいところをご相談させていただいて、補助メニューにのるのであれば進めてまいりたいと思いますので、詳細については、商工課のほうからご連絡させていただきますのでよろしくお願い致します。

参加者：実は、3日前にふくまち委員会がありまして、25日の日曜日にまちづくり懇話会があるので提案してまいります、乞うご期待というかたちで来たわけですが、今、市のほうでも、既存店舗のトイレを改修する補助金が出ます。家もそれに該当して若干の補助をいただきました。それをさらに膨らませたような感じで、高齢者対策と観光対策、子供たちを巻き込んだり、こういったいろいろな観点から合理的な支援をいただければ幸いかと思っているのですが、場所的には、すべてを満たすポイントになっているところなので、何とか地域として盛り立てていきたいというふうに考えております、どうぞよろしくお願い致します。

参加者：このまちづくり懇話会の会議のお知らせをいただいたときに、各地区のテーマが載っていたのですが、ほとんどの地区で高齢者対策、または子育ての対策ということで出ているのですが、栗山地域だけ産業の活性化と書いてありまして、すばらしいなと思ったのですが、逆を言いますと、それだけ市民の皆様が高齢者対策、または子育てに対しての問題、不安をたくさん抱えているのかなと思いました。こういった会議もそうなのですが、高齢者対策の会議に出られる方と、イベントなどどこに行っても同じような顔の方を見かけることが多い気がしまして、こういった会議の中の話も、会議に参加されていない方にぜひ聞かせたいなという気持ちが大いにあります。先ほどの、所野自治会の話などを良く聞くのですが、自治会から抜けた方や、こういったことに関心がない方が増えていまして、そういった抜けた方や関心がない方に対して、各自治会の役員さんや民生委員の方々は、大変ご苦労されているというお話はよく聞きました。所野でも650世帯あって、民生委員が4人しかいないものですから1人の負担が相当大変かと思えます。ぜひ他の地区でも民生委員の他、関係の方々を含めて増員をお願いすれば、負担の軽減や、目の届かないところの範囲が広がるのではないかと思います。はじめに、まちづくりのお話をいただきまして、市のほうでつくられている暮らしのガイドブックを読まれていれば、日光市で便利で充実した生活ができるのではないかと思います。私の手元のものは2015年版なのですが、これは毎年つくられているのでしょうか。各家庭に配付されているのではないかと思います。できましたら細かな改定と発行、活用の斡旋をしていただけると、市民にいいのではないかと思います。市民の方々は、こちらがあること自体あまりわかっていないのか、読まれていない人も多いと思うのですが、こちらの中に、子育て支援や高齢者福祉に対して細かく情報が載っていますので、よく読んでいただければ問題解決に一步でも近づけるのではな

いかと思います。少し前にまちづくりの小冊子も折り込みで入っておりました。こちらは、ボランティア団体の紹介が載っていたのですが、先ほど、久次良町のお話が出ていたのですが、一生懸命頑張っている自治会のことを、こういった雑誌等に紹介していただければ、他の自治会を含めて、そういった活動の目安やヒントになるのではないかと思います。言いたいことが先に言われてしまうので、後ろの方々は何を話そうかなと思っているのですが、いろいろ要望等はあると思いますので、実施を一度にというのは難しいと思うので、モデル地区という形で、ぜひ早期に実施していただけるといいのかなと思います。

健康福祉部長：まずは、民生委員さんのお話でしたが、先ほど言ったように所野地区は1名増員させていただいて、今回4人になったと思うのですが、全体で増やすというのは、なかなか難しい面もあったり、そもそも確保が難しいということでもあります。そのような中で、民生委員さんの負担を少しでも減らせないかということで、今後、協力委員制度というものをつくらせていただいて、補佐してくれる人がいるのであれば、民生委員さんを補佐するような仕組みを考えていて、今年度中にははじめたいと思っております。それから、お知らせすることがきっかけとなり広まっていくことは大事だと思いますし、改めて、ふくまち委員会で自分たちがやることを考えるのもそうなのですが、こういうことをやっていること共有することで、さらに広がっていくこともありますし、ふくまち委員で出ている方は、かなり意識の高い方だと思いますので、それを普通の人にも知らせるとするのは大事なことだと思いますので、工夫をしていきたいと思っております。

総合政策部長：暮らしのガイドブックをよく読んでいただきありがとうございます。こちらにつきましては、2年に1回改定をしております、2017年版を来月、各世帯のほうに配付させていただきたいと思っております。また、活用しやすいように、ホームページのほうに電子版も掲載しておりますので、そちらもご活用いただければと思います。

参加者：子供たちのリーダーシップを養成する機会があるのですが、そういった養成に参加されたお子さんたちは、団体集団の場でもリーダーシップというか、まとめる力がとても発揮されているところがありますので、高齢者の方々のリーダーシップの養成の場があってもいいのではと思います。

健康福祉部長：先ほどの中宮祠の話もそうなのですが、私の場合ですと、健康福祉部で福祉サイドの視点で考えるのですが、例えば、それが味噌の販売につながるとか、子供のリーダーシップの寛容につながるとか、もっと広い視点でいろいろなことを考え直す必要があるのだと感じておりますので、連携を図っていきたいと思っております。

参加者：ご存知のように日光市の人口は増加するどころか毎月毎月減っていて、それに輪をかけて高齢化が進んでいるという状況になっております。人口構成に占める団塊世代の割合が、昭和22年から26年の方が、いよいよ70歳に突入して、年を取った方が非常に増えるとい

う状況にきています。それに伴い独居世帯とか2人世帯がかなり進んでおります。1ヵ月ごとに0.01人ぐらい増えているという実態が出ています。私の住んでいる稲荷町には自治会が3つありますが、この3つの自治会の実態調査をしましょうということで、2年前に実施をいたしました。実際に戸数的には300戸ございます。人口は760名おります。その中で65歳以上は43%になります。前後しますが、独居世帯が76戸というかたちで、約4軒に1軒が独居世帯、2人世帯が35%あります。この2つを合わせると約6割が独居世帯か2人世帯というかたちになります。清滝について厳しい町内になっております。そういう中で、65歳以上が約44%おります。石を投げれば年寄りに当たるという状況です。確率的に半分は当たるというかたちになっております。そういう状況の中で、課題として長寿会という老人会なのですが、あまりにも年をとりにすぎたしまい、組織が成り立たないので自治会に戻しますという状況になっております。今は自治会が預かって、長寿会ではおかしいからシルバー部というかたちで、自治会長が兼任というかたちでやっている状況です。それと、シルバー部というのは、長寿会でいうと定義的には65歳以上らしいのですが、同時に若い子供たちを入れて全体で運営していこうということで、今現在やっているところでございます。それと、組があるのですが、高齢者のため、独居世帯のために、組長ができないというかたちで、極端なことをいうと、年間3軒で回しているという状況もございます。先ほども出ましたように、民生委員さんのお話なのですが、民生委員さんの仕事としては情報を市役所に報告すると、行政は住民とやり取りをするということですが、行政と住民がやり取りした結果のフィードバックが、民生委員さんに聞こえてこないということ聞いております。包括支援センター等のケースワーカーとか、ケアマネージャーが関わっていると思うのですが、民生委員さんはパイプ役でしかないのかという話です。それと、行政も人事異動などで担当者が変わった場合に、情報が引き継がれないことが見受けられたということでございます。平成17年4月から個人情報保護法、今年5月30日から改正個人情報保護法で、基本情報が入ってきていないということです。民生委員児童委員協議会が発足して今年で100年になるそうです。1年間をとおして、65歳以上の高齢者の実態調査が始まっております。内容としては、氏名、年齢、健康面、何かあった場合の緊急連絡先などが記載されていて、提出は任意ですが多分出してくれるかなと思います。これが自治会関係で持つ最大の情報かなと思っております。次に、自分たちができることは何かということで、自治会組織や組編成の見直しというかたちで、稲荷町に限りますと、1、2、3丁目では懇談会を開いて、一年かけてどういう問題があるかというかたちでまとめました。1つに統合できないかとかそういうことで模索しており、自治会長に対しまして答申はしましたけれども、まだ抵抗勢力がありまして、俺はまだ嫌だよ、私のときはやらないでということもありますので、徐々に理解活動をしているのですが、まだそういうところでコンセンサスに至ってないというのが実態でございます。それと自治会については、何々部というのが多いので、スリム化して2つを1つにして、やる人も少ないので役員を減らそうということで取り組んでおります。それから今模索しているのが、自治会の公民館活動を活発にしようということで、団塊の世代の人間が70歳に突入するので、この年代の方は、計算もそろばんから定年になるまでにパソコンまでやって、1から10までわかっていますし、遊び

についても昔の遊びから、今の遊びまで知っているのも、そういうノウハウを使わない手はないのではないかとということで、これを何とか自治会単位で活発にさせようと模索中です。公民館を使ってお茶飲みでもいいのではないかと、最初は老老介護ですけれども、みんなで集まろうというようなかたちで模索しているところがございます。旧日光市内では、江戸時代から弥生祭というのがありまして、若衆がしっかりしているというかたちで、この年代の人間が町内を支えているということが、日光の旧市内ではいいところがあるのかなと宣伝させていただきたいと思います。それと、行政のほうにお願いしたいことは、先ほども言いましたように民生委員さんや自治会に対して、情報の共有化をしていただければありがたいということが1つです。それと独居世帯に対しては、情報の制度、民生委員も含めて我々は見守りをしています。何箇所かでやられていると思うのですが、電気やガス、水道やヤクルトさんが訪問されておりますので、何か変化があったら連絡をする態勢が構築されているかと思うのですが、そのようなことでお願いできればと思っております。それから、高齢者が活躍できる場所の創出というようなかたちで、学校の空き教室が増えてきておりますが、公共施設マネジメント計画もいよいよ実行段階というかたちで、いろいろ統合関係がはじまっていると思うのですが、意見をいっぱい取り入れていただきまして、そういう場所も作っていただきたいというふうに思っております。コミュニケーションがあるのは病院です。病院を公共の場に引っ張り出してもらえば、そうすれば医療費も安くなると思います。家の中にいる方を外に引っ張り出すという方策を取っていただければ、ありがたいなと思います。それからもう1つ、何度も申しておりますように、団塊の世代の人間が、あと10年もすれば免許証の返納も出てくるのかと思いますので、土沢地区では行われていると思いますが、交通手段についても徐々に考えていただきたいと思います。最後に、要望なのですが、懇談会のメンバーなのですが、かなり熟練者が多くなっております。これから、日光市を背負っていただく若い人の世代の方もこういう中に入れてもらって、若い人の意見もいっぱい聞いていただければありがたいと思います。

市長：市の行うべきことで出されましたが、高齢者世帯の見守りについては、おっしゃるようにセーフティネットはいくつあってもいいと思うのです。どれかが気が付けばいいのです。これは今すでにやっているものがほとんどであります。また確認をして、セーフティネットをいくつにもかけて見守りをしていきたいと思っております。学校関係で問題になるのは、やはり学校までの距離が遠くなってしまいます。そうすると、新たに送迎の問題が出るので、これは学校の校長先生の協力も必要だと思っております。発想的には、いいかなと思いますので。どういうものが合ってくるか検討したいと思っております。それから、メンバーなのですが、公募は別なのですが、団体をお願いするのですが、若い方にはなかなか出ていただけないというのが現実です。出来る限り、これからの日光を背負う皆さんに半分くらい入っていただけたらと思います。また、女性の方にも多く入っていただきたいと思っております。

市民生活部長：公共交通という幅広い中でのお話になってしまいますが、この地域は、市内の中で

は比較的に交通という面では、恵まれた状況にあるのかなと感じております。先ほど各自自治会の中でそういった高齢者の足の話の伺いましたが、やはりそういう短い距離の移動などには、そういった取り組みが一番現実的なのかというところでお話をお聞きしております。将来的な問題でありますので、長い目で検討させていただきたいと思っております。

参加者：実は、冒頭お礼を申し上げるわけだったのですが、市民との協働関係で日光市が上位にランクされたということで、我々市民に対しましていろいろご協力いただきまして、ありがとうございます。お礼申し上げます。

市 長：まだまだだと思っているので頑張ります。

参加者：今回、事前アンケートをいただいたのですが、私にとってテーマが広すぎて、何を書いているのかわからなかったのですが、思いつく範囲で書かせていただきました。今日お話を聞いて、各地域でいろいろなことを行っているということをはじめて知りました。私も家にいることが少なく留守にするので、回覧板とかで高齢者の方の集まりがあるのだなというのを知るくらいでした。私自身も若くはないのですが、結婚して移り住んだ方などは、地域のことを知らない方も多くて、そういうお年寄りとか高齢者が集まるお話を聞くと、地域のことともわかるし、教えていただける場にもなると思うので、そういう交流の場に参加させていただくこともいいのかなということをおもいました。何かお手伝いできることがあれば、協力してやっていけたらいいのではないかとこの会に出席して思いましたので、発表させていただきました。

市 長：市が行うべきことということで、施設などへの交通手段の確保が必要とありますが。

参加者：アンケートをもらった時点でわかる範囲で書いたのですが、今日の意見とは変わってきてしまうのですが、お年寄りが道路を歩いているのを良く見かけるのですが、散歩をさせているのに、歩道を歩かないのかなと気になりました。整備されていればいいのかなと思いました。

市 長：計画的にやっておりますが、日光市は広くて市道だけで1,400キロメートルもあるので、想像を絶する距離なのです。それを限られた財源でやるものですから、すべての地域の皆さまに良くなったと言ってしまうのはなかなか難しいのですが、計画的な整備を進めてまいりたいと思います。それから、最後にこういった懇話会は、平日の昼間がいいと意見をいただいたのですが、やはり仕事の関係とかいろいろありまして、何日か提案をさせていただくと合わなくなってしまうのです。昨日と今日で4回予定をしているのですが、平日ですと昼間はやらないで夜になってしまうのです。明日は足尾で午後6時から行います。なかなか希望に添えなくて申し訳ありませんが、全体的にその様になってしまいます。どうぞご理解いただきたいなと思います。